

人口750万、
実際には1000万人が住む
と言われるタイ・バンコク。

この大都市の年中行事となっているのが
雨期の「洪水」です。

毎年のように水に浸かる。

にもかかわらず、

水に浸かっても悠々と構えていられるのは

なぜなのでしょう。

タイの人々がどのように水と接しているかを知ると、

リスク感覚の違いを強く意識させられます。

ねじ伏せられる洪水と、満ち溢れる満水。

その違いは、水害対策という

私たちの考え方をさえ変えてしまえばいいそうです。

満水みんすいのタイタイランド

これは、日本の水防意識の持ちようを見直す
ひとつのきっかけなのです。

水の文化 13号 2003年2月

特集「満水のタイランド」

雨期の世界単位 高谷好一 2

チャオプラヤー川流域の近代物流史

水辺空間の価値を変えた交通モード 柿崎一郎 5

水資源 開発と保全のあいだ 中島正博 10

地域プランナーが語る水の国タイ

開発におけるテクノロジーと習慣の共存 スワットナー・タダニティ 14

アジアの水辺から見えてくる水の文化

タイ中部の水辺の住いと暮らし アジアまち居住研究会 17

タイ中部の水辺から見るタイ社会の移り変わり 森田敦郎 29

満水のタイ 写真紀行 編集部 30

水の文化 染習実践取材 三重県長島町と岐阜県大垣市

輪中の智慧を伝えるリスクコミュニケーション 36

水を治める力 編集部 42

くらしのまなび 微笑みの国タイ 所澤さやか 46

水の文化書誌 アジアの水 古賀邦雄 48

データで読む水の文化

インフォメーション 51